

ヒグマによる人身事故の早急な回避を実現していくための「新たな場」に関する 知床ヒグマ対策連絡会議としての検討結果

【経緯】

- (H30.9.27) 第1回適正利用・エコツーリズム検討会議において、ヒグマによる人身事故の早急な回避を実現していくための「新たな場」の設置について提案。
- (H30.10.5) 緊急知床ヒグマ対策連絡会議において、「新たな場」の検討を行った結果、各町（斜里町、羅臼町、標津町）において「新たな場」の設置を合意。
- (H30.10.31) 第1回知床ヒグマ対策連絡会議において、各町における「新たな場」の検討状況、進捗状況を報告。
- (H30.11.19) 第2回エゾシカ・ヒグマWG会議において、知床ヒグマ対策連絡会議より「新たな場」の検討状況、進捗状況を報告。

【「新たな場」での検討条件】

- ①世界遺産地域におけるヒグマと人との関係の望ましい状態（解決の終着点）について合意する。
- ②合意後、参加組織は持てる資源（能力）を総動員して、解決策を創る。
- ③参加する組織や個人の過去の言動についての批判や評価は一切しない。

【結果】

- ✓ ヒグマ管理計画については、すでに町民の合意が得られていることから、抜本的に変える必要性はない。
- ✓ 今後もヒグマ管理計画の枠組みの中で進めて行く。
- ✓ 3町それぞれの形で、アクションプランに住民意見を反映していくことをこれからも継続していく。
- ✓ ヒグマ管理計画で合意された目的がありこれに基づいて進めているため、これを崩さないでやっていくのが知床地域の合意と考える。

ヒグマによる人身事故の早急な回避を実現していくための会議（概要版）

と き：2018年10月24日（水）

18:00～20:10

ところ：斜里町漁村センター

2階会議室

この会議への参加を要請した団体

- ・知床斜里町観光協会 ・ウトロ地域協議会 ・ウトロ自治会 ・知床ガイド協議会
- ・斜里第一漁業協同組合 ・ウトロ漁業協同組合 ・斜里山岳会 ・知床自然保護協会
- ・知床小型観光船協議会 ・自然公園財団知床支部 ・公益財団法人知床財団
- ・環境省ウトロ自然保護官事務所 ・知床森林生態系保全センター
- ・北海道オホーツク総合振興局知床分室 ・斜里町

(1) 会議の趣旨説明

- ✓ 参集者はエコツアー検討会議の参集者及び両漁協。地域で話す場を設定。利用の部分と地域の安全について意見交換したい。

(2) 現状認識の共有

- ✓ 知床財団で作成した動画と今回のきっかけとなった雑誌モーリーへ寄稿した記事について説明。
- ✓ SNO 松田社長より、この10年でヒグマが変わってきており、事故がいつ起きてもおかしくない。エリアごとでリスクは異なると思うので、具体的な数字とヒヤリハットのデータを財団から提示してほしい。財団と斜里町の対応のみでは限界があり、根本的にやり方を変えないといけないという提言があった。
- ✓ ウトロ地域協議会 桑島会長より、先日のエコツーリズム検討会議に提出された意見書について、説明を行った。

(3) 意見交換（主なものを抜粋）

- ・知床でクマを見て感動するビジター（桑島 自治会長）
- ・その一方で住民の不安（桑島 自治会長）
- ・対ヒグマの対応は、既に限界。対人への早急な対策が必要（知床財団 石名坂係長）
- ・デナリ国立公園 野生動物を守るための人間の行動ルールが確立されている（知床財団 能勢主任）
- ・来訪する人への教育、世界の国立公園を手本に（若月 自然ガイド）
- ・法的なしくみ、法的根拠が無いことが問題（松本 ウトロ地域協議会、佐藤 ウトロ地域協議会）
- ・ルールお構いなしの釣り客やビジター。全体を網羅する法的根拠が必要（蠣崎 ウトロ漁組専務）

- ・レンジャーみたいな服を着ることで、法的な薄さをカバーしている（知床財団 寺山次長）
- ・公的なルールのもとで知床を楽しんでほしい（知床財団 寺山次長）
- ・法根拠がない中でのヒグマ餌やり禁止キャンペーンは、効果があった。事故を起こすと観光サイドは大変。人馴れグマ、本当に増えているのか（観光協会 新村部長）
- ・人馴れしたヒグマは増加傾向（知床財団 山中局長）
- ・動物を見て笑顔で写真を撮るからヒグマも人に馴れる。全国で統一した法的規則を作るべき（松本 ウトロ地域協議会）
- ・事故が起きた時の経済的な影響を懸念（神尾 小型観光船協議会）
- ・強制力を持ったルールのもとで、違反者は退去して貰う（神尾 小型観光船協議会）
- ・山岳利用、知床の山にだけ登る人は少ない。知床のローカルルールは限界。北海道統一、山岳登山統一のルールが必要。（滝澤 斜里山岳会）
- ・「知床でヒグマを見られる」という期待（神尾 小型観光船協議会）
- ・観光船だけでなく「陸路」で安全に見られる場所の設置（綾野 知床自然保護協会）
- ・知床は「クマ」を見せたいのか、見せたくないのか、意志表示が必要。（若月 自然ガイド）
- ・野生動物管理の制度化（佐藤 ウトロ地域協議会）
- ・安全度を高める取り組み（綾野 知床自然保護協会）
- ・場所によるリスクの度合いが違う。釣り人、知床五湖、道路上、登山道、それぞれ危ないと言うが、度合いが違う（河井 商工観光課長）
- ・今、急にリスクが高まったと思っていない。以前から知床はリスクが高かったし、急激に高まったとは思わない。（綾野 自然保護協会）
- ・人馴れは現象。国立公園全体で見せるという方向に行くのか。幌別、岩尾別、知床全体が開放宣言、という順番で考えてきた。「見ちゃいけないものだ、見たいけど」という観光客。やりづらさはある。（知床財団 秋葉係長）
- ・国立公園内で「人馴れしていいですよ」ということではなく、クマを見ることと両立できる場所。（知床財団 梅村）

（４）今後の予定

- ・考えていることをアイデアとして寄せてほしい。現状把握を行い、他地域の事例も対策に反映したい。今後の進め方については、連絡会議に今回の会議内容を報告した上で、構成団体と協議し決定する予定。後日またその結果を報告する（増田 環境課長）